

ちょっと気になる”おしり”の話 第2回

便器が真っ赤！どうしよう！？ (内痔核)

こんにちは。上野クリニックの上野正勝です。今回は、肛門の内側にできる、内痔核の話です。

トイレで大便をしようと、りきんだら、突然ドバツと出血が！便器は真っ赤！大量出血？？特に生理のない男性は、出血に不慣れですので、その動揺は大きい。

落ち着いて、下血（お尻からの出血のこと）の色を見てください。下血が鮮やかな赤の場合は、肛門から近いところからの出血が多いです。原因は痔のことが多い。下血量が多いのに、紙でおしりを拭いてもあまり血が付かない場合は“内痔核”。肛門の内側にできた痔です。内痔核からじわじわと出た血が、きゅっと締まる肛門でせき止められて、排便の時に一気に押し出されます。ですから、排便時の下血量が多いのです。こんな下血が続くようなら、肛門を見てくれる医者にご相談しましょう。下血による貧血も心配です。また、大腸がんがかくれている場合もあります。市民検診や職場検診で、検便による大腸がん検診を受けられた方なら、おわかりでしょう。もし、大腸がんからの出血で、大便に血が混じっていても、痔からの出血があれば、見分けが付きません。

内痔核の予防法は、便秘をしないこと。暑くなるこの時期、十分水分補給をして、大便が硬くならないようにしましょう。そして、排便の時、長時間きばらないことも大切です。